

「東京都立第一商業高等学校の改編に関する基本計画（案）」に対する意見募集の結果について

1 意見募集の概要

（１）募集期間

令和 8 年 5 月 28 日（木曜日）から同年 6 月 26 日（金曜日）まで

（２）提出方法

WEB又は郵送

（３）意見の総数

86件

（４）内訳

【属性と件数】

属性	件数
小学生	0
中学生	1
高校生	2
大学生、専門学校生	1 5
未就学児の保護者	1
小学生の保護者	2
中学生の保護者	5
高校生の保護者	4
学校関係者	3 5
その他（個人）	1 4
その他（団体）	7
合計	8 6

【項目と件数】

項目名	件数
I ビジネスを取り巻く社会経済情勢	
1 国の取組	1
2 東京都の取組	
3 東京都教育委員会の取組	
II 商業教育に今後求められるもの	9
III 改編の方向性	2 1
IV 理念等	
1 教育理念	0
2 育成すべき生徒像	
3 教育方針の三つの柱	
V 教育課程	
1 教育課程の基本方針	2 3
2 教育課程編成の基本的な考え方	
3 教育課程の特色	
4 設置する主な教科・科目等	
5 教育課程の編成案	
6 その他の教育活動	
7 3年間の教育イメージ	
8 入学者選抜方法	
VI 施設・設備	1
VII 基本的枠組み	1 0
VIII これまでの検討経過	3
IX 本計画の実施に当たって	1 8
合計	8 6

（注）必要に応じて意見の要約等を行っているため、「意見の総数」と実際に掲載する件数は一致しません。

2「主な意見要旨」と「東京都教育委員会の考え方」

意見募集に寄せられた「主な意見」を整理し、各々について「東京都教育委員会の考え方」をお示します。
なお、御意見に関しては、趣旨を踏まえて要約しており、趣旨が同じ意見はまとめています。

「Ⅰ ビジネスを取り巻く社会経済情勢」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅰ ビジネスを取り巻く社会経済情勢	Ⅰ－１	「東京都教育委員会では、商業教育改革の一環として、平成30年度から商業科をビジネス科へと改編し、簿記・会計等の特定分野に係る知識・技術を習得するための教育に加え、マーケティング、マネジメント、情報処理など、実用性の高いビジネススキルを実践的に学ぶ機会の充実を図ってきた。」とあるが、まさにその通りである。それにもかかわらず、これらのうち、簿記・会計分野で実績を残してきた第一商業高校を実質閉校のような形にしてまで、新しい学校をつくる必要があったのか。第一商業高校のビジネス科がなくなること、簿記・会計等の分野で高い知識を得られる学校が第五商業高校だけになってしまうことを理解しているのか。	本計画では新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編します。他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。

「Ⅱ 商業教育に今後求められるもの」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅱ 商業教育に今後求められるもの	Ⅱ－１	「生徒や保護者の進路ニーズの中心は、就職から、専門性を更に深めることを目的とした大学進学へと変化しているため、専門性の向上に加え、高度な学びへの接続が強く求められている。」とあり、確かに第一商業高校でも約半数が大学進学を希望している。しかし、それをもって、「商業高校でも進学者が増えてきたから普通科の枠組みにして進学に必要な普通教科を中心とした学び」にするという考えは現場を分かってなさすぎるのではないかと。第一商業高校では、中学校で勉強が苦手だった生徒が多く、それでも一から商業科目を学び自信をつけ、それを検定取得という形で可視化し、それらを活かした推薦入試で大学進学を実現している。今回の改編により、こういった生徒が高校で再起を図り、大学進学を目指すルートが一つなくなることになる。	本計画では新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編します。他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。

「Ⅱ 商業教育に今後求められるもの」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅱ 商業教育に今後求められるもの	Ⅱ－2	公開されている改編計画を見る限り、商業科潰しとしか思えない。公開されている教育課程では国際金融はおろか、その基本となる簿記などの知識は身に付かない。計画が中途半端。	本計画では新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編します。
	Ⅱ－3	商業高校で使用している教科書の内容は、実態と乖離している内容が見受けられます。学習指導要領を包含しながら、現実社会に合致した内容まで幅広く指導できるよう指導計画を策定した方がよいと思います。 そのためには、既存の教科書以外に、補助教材を編纂するとともに、指導陣には外部人材を積極的に活用した方がよいと思います。	いただいたご意見を踏まえ、国際金融の知見を有する大学の教授や企業等の実務家など、学校外部の専門家から直接学ぶ機会の創出について計画に追記します【P9 V(1)④】。
	Ⅱ－4	私は、第一商業高等学校の改編計画について慎重な再検討を求めます。 今回の改編では「グローバル金融」を掲げていますが、その内容が主として英語教育の強化にとどまるのであれば、本来の商業教育の発展とは言えないのではないのでしょうか。 金融や国際ビジネスの分野で活躍できる人材を育成するのであれば、語学力だけでなく、会計・簿記・税務・ファイナンスなどの専門知識を体系的に学び、将来的には国際的に通用する資格取得も視野に入れた教育が必要だと考えます。 また、国際バカロレアについても、その教育理念自体を否定するものではありませんが、商業高校がこれまで培ってきた専門教育との関連性は必ずしも明確ではありません。既に東京都立国際高等学校などで実施されている教育内容を、商業高校へ導入する意義について十分な説明が必要だと考えます。 現在、企業や社会が求めているのは、単なるイメージ先行の「グローバル人材」ではなく、資格や実務能力に裏付けられた専門性を持つ人材です。簿記、情報処理、会計、ビジネス実務など、商業高校ならではの教育は依然として大きな価値を持っています。 もし時代の変化に対応した教育改革が必要であるならば、これまでの商業教育を廃止・縮小するのではなく、その基盤を維持した上で国際金融やデジタル分野などを強化する形で発展させるべきではないのでしょうか。 長年にわたり培われてきた商業教育の伝統と実績を軽視し、名称やイメージを重視した改革を進めることには強い懸念を抱いています。 第一商業高等学校が持つ商業教育の強みを残しながら発展させる方向で、改編計画の再検討を強く要望いたします。	本計画では新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編します。商業教育の蓄積を活かしつつ、国際金融教育を軸とした「世界とつながる学び」を重視します。

「Ⅱ 商業教育に今後求められるもの」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅱ 商業教育に今後求められるもの	Ⅱ-5	商業教育には、即戦力としての実務教育が大切です。私も商業高校の卒業生ですが、私が卒業した35年前、情報処理の科目が始まった頃で、ワープロ検定・情報処理検定などが盛んに行われていました。また、簿記検定・珠算検定・電卓検定などその他にも多種多彩な実務検定を受けられました。また、普通科と同じカリキュラムもあり、商業高校での3年間は充実した3年間でした。また、実務教育により、大学進学時に、進路が明確になり、私も大学の商学部に進学する事ができました。商業教育は時代の変化にいち早く対応出来る教育環境だと思います。生徒にチャンスがあり、チャレンジもできます。将来、世界に羽ばたく人材のたまごがここに集うことは人生を豊かになる糧を得ることが出来る環境は素晴らしいと思いました。	本計画では新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編します。他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。
	Ⅱ-6	商業高校というよりもビジネススクールに寄せて行くようなので、名称も〇〇商業高校ではなく、ビジネススクールを思わせるな名称に変更したらよいのでは、工業高校は既に名前を〇〇工業高校とは言わないのでは？	
	Ⅱ-7	従来の簿記などの資格勉強のみならず、現代的なAI活用法や、動画編集方法など、トレンドも取り入れることで商業高校レベル2,0のような、社会に求められる学びを修学できる環境づくりが必要だと思います。商業×AIという組み合わせを売りにして前面に出すことで、若い人の関心を集められると思います。	
	Ⅱ-8	卒業生の進路や保護者のニーズが近年、就職から大学進学に変化しているのは世の中の考え方の変化により生じていることだと考える。高度な商業を学ぶために大学進学しても、実際に第一商業高校で学んだことをより専門的に学んで卒業生は少ない。結局、別の分野の勉強をして、就職しているため商業教育に求められているものが変わっている理由にはならないと考える。大学に入っても第一商業高校でやったことをもう一度学び直すことから始まるため、大学進学を目指す学校作りよりも、卒業後即座に就職して使えるスキルや資格を育成する組織になるべきだと考える。	
	Ⅱ-9	高校商業教育に関して今後必ず求められる項目座学としての基礎教育科目、専門科目の向上と実学としてのコミュニケーション能力、自分の考えを他者に的確にアピールできる力がどの業界でも必要。私も商業高校出身です。3年間で商業科目をきちんとマスターしていれば大学において商業基礎科目は必要ないと思います。今後のキャリア教育を本格的に進めるのであれば単純に大学進学を求めるのではなく、高校において基礎科目、商業基礎科目プラス2年間延長し高等専門学校のような生徒が自分自身で研究する力をつけさせる教育が必要であると思われます。生徒が楽しくワクワクできる都立高校が実現できることを切に望みます。	
			御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-1	第一商業高等学校の改編において、全学級を普通科(グローバル・ファイナンスコース、国際バカロレアコース)とするのではなく、定員の半数を現在の「ビジネス科」として存続させる「学科併置型」の改編を検討すべきである。 【理由と意義】 1. 実践的なビジネス教育の継続と「商業教育の中核的価値」の継承 基本計画案では、AIやデジタル技術が進展する現代においても、商業教育が培ってきた「情報を収集・分析・活用し、課題を解決する力」は、決して代替されない重要な教育の基盤であると述べられている。また、従来のビジネス科においても、マーケティングやマネジメント、情報処理といった実用性の高いスキルを実践的に学ぶ機会が充実されてきた。普通科へと完全に移行することは、これらの高度な専門性を深める「専門教科(商業)」の単位数確保を困難にする懸念がある。ビジネス科を半分残すことで、大学進学を主眼とする層だけでなく、より専門的・実践的な実務能力の習得を希望する生徒のニーズにも応え続けるべきである。 2. ビジネス街に立地する「生きた教材」としての意義 第一商業高校が所在する渋谷区鉢山町一帯は、日本を代表するビジネス街に隣接している。計画案でも、国際金融の最前線で活躍する専門家からの学習やインターンシップの重要性が強調されている。この立地において、「実際の企業活動」と「教室での学び」を直結させ、地域経済を担う人材を育成することこそが商業高校の存在意義である。ビジネス街のただ中で、実務に特化したビジネス科の生徒が学ぶ姿は、学校と社会の密接な結びつきを象徴するものであり、普通科の生徒にとっても「実社会の経済活動」を肌で感じる貴重な教育環境(ロールモデル)となる。 3. 多様なキャリアパスと「フラッグシップ校」としての新たな役割 計画案では、生徒の進路ニーズが大学進学へ変化していることが改編の背景として挙げられている。しかし、社会で求められるのは、高度な理論を備えた人材だけでなく、即戦力となる実務スキルと高い倫理観を兼ね備えた人材である。定員の半分をビジネス科として維持し、もう半分の普通科(国際金融・IB)とすることで、「実務実践型のビジネス教育」と「理論探究型の国際金融教育」が校内で切磋琢磨する、真の意味での「商業教育のフラッグシップ校」になれると考える。両学科の生徒が協働的な学びを行うことで、より多様な視点を持ったビジネスパーソンの育成が可能になる。 4. 地域特性を活かした柔軟な教育課程の実現 「他の商業高校においても、各校の強みや地域特性を活かす」という方針が示されている。第一商業高校の場合、その最大の地域特性は「都心のビジネス街」にあることである。この利点を最大限に活かすためには、普通科の枠組みによる柔軟性だけでなく、長年培ってきた「ビジネス科」という専門学科の看板と実績を維持し、実社会との接点を太く保ち続けることが必要である。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見の要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-2	◎改編後の学級編成において、全てを普通科とするのではなく、定員の50%(2学級80人程度)を現行の「ビジネス科」として維持する「学科併設型」の改編を強く要望する。 【理由】 ○地域連携「シブヤ学」の深化と実学教育の継承 第一商業高校は、これまで「地域探究推進校」として、國學院大學や地元企業と連携した「シブヤ学」を展開し、渋谷・代官山地域の課題解決に主体的に取り組む教育を実践してきました。現在の学校経営計画では、この「実務的な知識・技能を活かした地域貢献」が教育目標の根幹となっています。完全な普通科移行は、大学進学を主目的とするカリキュラムへの偏重を招き、これまで培ってきた「ビジネスの視点で街を歩き、実社会の課題を解決する」という商業高校ならではの泥臭くも実践的な探究活動の質を低下させる懸念があります。ビジネス街という「生きた教材」のただ中にある立地を最大限に活かすには、実務に特化した「ビジネス科」の存続こそが不可欠です。 ○多様なキャリア形成への対応(進学と就職の両立) 基本計画案では、大学進学ニーズの高まりを改編の理由としていますが、第一商業高校の現状は、日商簿記2級等の高度な資格取得を武器にした「専門選抜による大学進学」と、優良企業からの豊富な求人を活かした「就職」の双方に高い実績を持っています。懇談会の議論でも、高校は「強みの種や自分の進みたい方向を決められる重要な場」であるべきとの指摘がありました。全ての生徒を「国際金融」という高度に専門的な普通科の枠に当てはめるのではなく、より汎用的で実務的なビジネススキルを学びたい層、あるいは早期の自立を目指す層を「ビジネス科」として受け入れ続けることが、公教育としての都立高校の多様性(セーフティネットとしての役割)を担保することに繋がります。 ○「商業教育の中核的価値」を体現するフラッグシップ校の在り方 教育委員会は、商業教育の価値を「情報を収集・分析・活用し、倫理観を持って解決策を探究する力」としており、これはAI時代でも代替されないとしています。そうであれば、この価値を最も純粋に追求する「ビジネス科」と、それを国際金融という特定分野に特化・高度化させた「普通科(グローバル・ファイナンスコース等)」を同一校内に併設することこそが、真の「新たな商業教育のフラッグシップ」にふさわしい姿です。理論重視の普通科生徒と、実務実践重視のビジネス科生徒が、例えば「総合実践」等の科目や学校行事で交流・切磋琢磨することで、互いに刺激し合う多様性のある教育環境が構築されます。 ○カリキュラムの柔軟性と生徒の負担軽減 専門部会の検討において、国際バカロレア(IB)の導入に伴う「時間数確保」や「生徒の負担増」が課題として挙げられています。全生徒を普通科(GF/IBコース)という高負荷な枠組みに置くのではなく、現在のビジネス科の枠組みを半分残すことで、生徒が自分の適性や学習ペースに合わせて、理論探究(普通科)か実務実践(ビジネス科)かを選択できるようになり、ミスマッチによる中途退学のリスクを抑えることができます。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-3	「商業の専門性と普通科の学びを融合した新たな教育課程を編成する。」とあるが、編成案を見る限りそうなっていない。あの程度の時間数で商業の専門性が身につくと本気で考えているのか。	国際金融に関する専門的な学びは、主として大学段階において本格的に深化が図られる分野であり、高校段階においては、大学での高度な学びへ円滑に接続するための確かな基礎力や、論理的思考力、探究力等を育成することが重要です。 そのため、商業教育の専門性に加え、文系・理系に偏らず、大学の学びに繋がる柔軟でバランスの取れた教育課程を編成してまいります。
	Ⅲ-4	商業科から普通科に改編する計画には強く反対する。 国際金融やIBを高校で学ぶのは専門性が高いのではないか。 私は卒業生だが、数多くの資格を取得できる第一商業高校に誇りを持っている。 なぜ伝統ある商業高校をなくしてまで行うのか。 伝統校の歴史を尊重してほしい。	国際金融に関する専門的な学びは、主として大学段階において本格的に深化が図られる分野であり、高校段階においては、大学での高度な学びへ円滑に接続するための確かな基礎力や、論理的思考力、探究力等を育成することが重要です。 そのため、今回の改編では、商業教育で培ってきた知見や実践を生かしながら、普通科の枠組みを活用することで、より柔軟でバランスの取れた教育課程を編成することとしました。 IBコースについては、国際的な視野と探究的な学びを重視する国際バカロレア教育を実施することにより、国際社会において自ら課題を設定し、主体的に行動できる人材の育成を目的としています。

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-5	グローバル化やデジタル化に対応した新たな商業教育の推進そのものには賛同するものです。しかし、その実現は商業教育の基盤を維持・発展させる中で行われるべきであり、商業科を普通科へ改編することによって達成されるものではありません。 東京都教育委員会におかれては、本計画を再考するとともに、専門高校の機能強化と商業教育の発展に資する方策について、関係者との十分な協議を行われるよう強く要望します。	
	Ⅲ-6	○「高校教育改革に関する基本方針」の方向性との整合性 国が示した「高校教育改革に関する基本方針」においては、2040年に向けた高校教育の在り方として、我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成のため、専門高校の機能強化を図ることが重要な方向性として示されています。 商業高校は、地域産業や経済社会を支える実践的な職業人材を育成する重要な役割を担っており、デジタル化やグローバル化が進展する現代において、その重要性はむしろ高まっています。今回の計画は、専門高校の機能を強化するのではなく、専門学科を普通科へ改編するものであり、国が示す専門高校強化の方向性と整合しないものと考えます。 高度国際金融人材の育成という新たな教育需要に対応するのであれば、商業教育の専門性を基盤とした学科・コースの充実を図るべきであり、専門高校としての機能を維持・発展させる方策を検討されることを強く要望します。	国際金融に関する専門的な学びは、主として大学段階において本格的に深化が図られる分野であり、高校段階においては、大学での高度な学びへ円滑に接続するための確かな基礎力や、論理的思考力、探究力等を育成することが重要です。 そのため、今回の改編では、商業教育で培ってきた知見や実践を生かしながら、普通科の枠組みを活用することで、より柔軟でバランスの取れた教育課程を編成することとしました。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。
	Ⅲ-7	東京都立第一商業高等学校の普通科への改編案に反対します。私は将来、第一商業高校の全日制で簿記やパソコンなどの実務的な商業を学びたいと強く願っています。商業を学びたい人の枠を削って普通科に変えてしまうのは、意欲のある人間の学ぶ権利や居場所を奪う行為です。また、私にとって第一商業高校は第二の居場所なくらい大切な場所です。特に1年生の課外授業でTGGにおけるカリキュラムは他の学校にはない英語力を高められる素晴らしい行事だと私は思います。私は東京都立第一商業高等学校に行きたくそこで3年間で簿記1級を取得したく資格を取れるのに力を入れてくれるのは第一商業高校しかありません。私の全てです。絶対に夢を諦めたくありません。計画を白紙撤回し、ビジネス科を存続させてください。	

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-8	○中学生の学びの選択肢の縮小 商業高校は、普通科とは異なる専門的・実践的な学びを希望する生徒に対して、多様な進路選択の機会を提供しています。近年、専門高校の学科数や募集定員が減少する傾向が見られる中、東京都においても商業科が普通科へ改編されることは、中学生及び保護者にとっての学びの選択肢を狭めることにつながります。 将来、企業経営、会計、流通、情報処理、金融等の分野で活躍したいと考える生徒が、入学段階から専門的な学習を行う機会を失うことは、個々の生徒の能力や適性を伸ばす教育の理念にも反するものです。教育の多様化が求められる時代においては、普通科への一元化ではなく、専門学科を含めた多様な学びの場を維持・充実させることが重要であると考えます。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。
	Ⅲ-9	○学科改編と商業教育の推進との整合性 東京都は、「高度国際金融人材」の育成を目的として商業高校をフラッグシップ校に指定し、国際金融教育コース等を設置する方針を示しましたが、本計画では、設置学科について商業科を普通科に改編することとなっています。 本来、金融・会計・ビジネス・起業家教育などは、商業教育が長年培ってきた専門教育の中心的な領域です。高度な国際金融教育を推進するのであれば、商業科の教育内容をさらに発展・高度化することによって実現すべきであり、商業科を普通科へ改編することは、その趣旨と整合しているとは言えません。商業教育の発展を図るために商業科そのものを廃止または縮小することは、専門教育の蓄積や教育資源を弱体化させる結果につながりかねず、商業教育の振興という観点から看過できません。	
	Ⅲ-10	「これらの教育を実施する学校は、長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を有し、国際理解教育や探求的な学び、企業や大学との連携等を展開してきた、第一商業高等学校とする。」とあるが、第一商業高校の独自性等を全く理解していない人間の判断で全くもってナンセンスである。現在、簿記会計教育に力を入れ、日商簿記検定2級を正規の教育課程で取得できる商業高校は第一商業高校と第五商業高校しかない。簿記における競技会で全国大会に出場しているのも大体この2校で、第一商業高校は6年連続全国大会に出場している。第一商業高校の卒業生は、高校在学中に日商簿記2級を取得し、大学や専門学校に進学後、公認会計士や税理士、企業の経理等の会計専門職に就いている卒業生が多い。大学の指定校のリストをみても、このことを認められてこの2校に上位校の指定校が集中している。第一商業高校を今回の改編案通りに改編するということは、東京都立の商業高校で日商簿記2級を取得できるのは第五商業高校だけとなり、区部の商業高校ではそれができなくなることを理解しているのか。以上のことから、改編の対象として第一商業高校は適切ではない。	

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-11	先日、全商退職校長会の総会に出席し、議題の一つであった東京都立第一商業高等学校の改編について説明を伺いました。その内容に接し、長年商業教育に携わってきた者として強い危機感を覚えました。私は総会の場で、全商理事長や都立商業高等学校長会に対し率直な意見を述べましたが、今回の改編は単に行政的な判断の結果ではなく、私たち商業教育関係者自身の責任と考えています。本来、商業教育は近江商人の「三方よし」の理念に代表される商道德を基盤とし、専門知識や技能の習得だけでなく、人間形成を重視する全人教育を担うものでした。しかし近年は、こうした理念の継承よりも即効性のある知識や資格取得に重点が置かれ、商業教育の本質が十分に議論されないまま教育が進められてきたのではないのでしょうか。その結果として、伝統ある商業高校の存在意義が社会に十分理解されず、今回のような改編につながったと考えています。今回の改革案についても、商業教育が本来目指すべき教育の実現は難しいのではないかと懸念しています。例えば金融教育を重視するとされていますが、企業の財務指標や経営状況を理解するためには、その基礎となる簿記や会計の知識が不可欠です。こうした基盤的な学習を十分に行わないまま金融教育を進めても、表面的な理解にとどまる可能性があります。したがって、ビジネス基礎、簿記、商業経済関連科目を体系的に学び、その上でグローバル社会に対応できる能力を育成する教育課程を構築することが重要であると考えます。また、進路実績についても課題を感じています。進学実績そのものが教育の価値を決定するわけではありませんが、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出そうとする教育的努力が十分になされているかどうかは検証されるべきです。例えば他県の商業高校では、かつて国公立大学への進学者が30名程度いた時期がありましたが、その後大幅に減少しました。この事例が示すように、学校全体として高い目標を掲げ、生徒の進路実現を支援し続ける姿勢が重要であると考えます。商業教育の使命は、商道德を学びながら社会に貢献できる人材を育成し、あわせて豊かな人間性を育むことにあります。今回の改編にあたっては、単なる学科再編や時代への対応にとどまらず、商業教育の理念そのものを改めて問い直し、その理念をどのように教育実践へ落とし込むのかについて十分な議論を重ねていただきたいと思います。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。
	Ⅲ-12	都立第一商業高校の改革案を拝見しました。国際金融分野に関する専門性の育成を目指す内容であり、その理念や方向性については理解できる部分もあります。しかしながら、3年間で7単位という限られた教育課程の中で、改革案に示されている多岐にわたる内容を十分に実現できるのかという点に疑問を感じています。生徒が実質的な学びを深めるためには、相応の授業時間や教育体制が必要ではないでしょうか。 また、これだけ高度で専門的な内容を、実際にどのような教員や外部人材が指導するのかについても、具体的な説明が求められると考えます。 さらに、改革案には「これまでの伝統を踏まえつつ」と記載されていますが、長年にわたり第一商業高校が培ってきた商業教育の特色(全人教育および商道德)や伝統が、どのように新たな教育内容に継承されていくのかが見えにくいように感じます。 改革そのものを否定するものではありませんが、教育内容の実現可能性や指導体制、そして伝統との連続性について、より丁寧な説明と検討が必要ではないかと思っています。	

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-13	学力的にあまり優秀とは言えない生徒が輝けるのが今の商業高校です。どうか、無くさないでください。第一商業高校を改革すべきなのはわかりますが、このような改編は違うと思う。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。
	Ⅲ-14	東京都教育委員会の取り組みとして、第一商業高等学校の改編は賛同します。ただ、現在定員割れが何年も続いていたので、学校のレベルの低下は否定できない。過去に行った授業ができない、あるいはついてこないなどの問題を抱えていました。改編で受験希望者のレベルを上げるアナウンスや広報が必要かと思います。他の自治体は事前のPRに力を入れていました。どんな学校かだけでなく専門教科としてどんな先生が特別講師でくるのか。あるいは著名人(特にビジネスに関する人材)のPR、そして大学と提携してこのような進路を実現できるなど開校までの2年間のPRは以前の学校がどのような学校だったのかということも感じさせませんでした。都立の宣伝については、まだ足りないのではという思いがあります。この特徴的なビジネスコースに改編するのであれば、バカロレアも含め、その出口には何が見えるのかを具体的に提示するべきだと思います。 第一商業高校は、もともと中堅クラスの女子の人気校でした。商業教育が人気がないのか、時代に合っていないのか。 ビジネスを語るうえで、財務諸表を読む力や、マーケティングの基礎知識は必須だと考える。また、保護者が会社経営や卒業生であることも商業高校の強みだったと思います。 今後少子化により、学生数が激減する時を迎えます。そんな中で市民から選ばれる専門高校の在り方とはということを踏まえ専門性を生かした教育の存続を図るべきだと思います。 そうでなければ、単純に普通科を増やすだけで差別化になりません。 また、今後高等学校で「地理」を必修とするのであれば、地政学をやるべきです。 政界情勢、時事問題を知らない。学校で教えないのもいかなものか。特にビジネスを考えた教育であるならば地政学は必須です。そしてタイムリーかつ世界史も必要。この要素を含めて検討すべきです。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-15	今まで通りの商業科も残すべき。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。
	Ⅲ-16	商業高校をより高度なリベラルアーツを学べる普通科にして、海外や国内の難関大学にも進学できるように改編する方向性は賛成です。一方で立地や過去のつながりを生かした独自の教育プログラム(アントレプレナーシップ教育など)など、都立高校の中でも特色を出すと、国際高校等との差別化が図れるのではと思います。	
	Ⅲ-17	私は子供を海外のIB校で学ばせた経験がある者です。PYP修了の時点で本帰国いたしました。当時のクラスメートの親御さんたちから(国籍を問わず)、「PYPやMYPを経ずにDPにチャレンジした子供たちは、いまひとつ成果が上がっていない(言葉を選ばずにいうと成績が良くない)」ということをたびたび聞きました。IBは、ある意味独特な評価軸であるため、幼い頃から慣れていないと高校だけでは効果が薄いのではないかと、というのが彼らの見解です。学術的にエビデンスがあるわけではなく、あくまでも見聞きした範囲ですが、高校だけIBを実施するのは、全く上手いやり方ではないと思います。国際金融教育に必要なのは、教育システムの変更ではなく、まずは英語力ではないでしょうか。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-18	在校生保護者です。改編の方向性が第一商業高校の校風とずれていると感じる。 英語強化(バカロレア)と国際金融であれば他の学校の方が融和性がある。 第一商業高校の強みは簿記などの資格取得と、商学部などへの進学。公認会計士なども優秀層は見据えて早い段階から準備ができること、またこれまでの歴史から豊富なつながりのある地域産業(地銀など)への就職です。 国際金融とバカロレアだと第一商業高校のこの強みのいずれも破壊される。この方向は中堅私立高校が安直に打ち出している方向性でもあり、1保護者としては正直うんざりでまったく差別化できていない。バカロレアやダブルディプロマを謳う私立高校は他にもあり、通っている在校生や保護者からはあまりの負担感に悲鳴も聞こえているほど。 商業高校では簿記や情報、ビジネス基礎などを基本から学び資格取得を目指せる環境を維持すべきと思う。AIで「なんとなく」文系の就職先が脅かされつつある現在、早い段階で実学や資格、そして就職という選択肢も検討できる道はこれからの数年で見直されると確信しています。 どこの高校の説明会でも紋切り型で伝えられる「探究型学習」、これが実際の多くの生徒にはなにも身につかず、負担だけ増えている現状を実際の生徒たちを見て考え直してほしい。私立高校が探究型学習を宣伝文句に使うのは大学の総合型入試に使わせるためです。 探究をするにはまず基礎的な知識をゆっくり育む必要があり、国際金融など高度な探求をするのは大学に入ってからでも遅くない。理念だけで突っ走るのは反対です。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。

「Ⅲ 改編の方向性」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅲ 改編の方向性	Ⅲ-19	経済格差が広がる今日を鑑みると、飽和する普通科を増やすよりも、高校卒業で就職する力を付ける商業科をはじめとした専門学科の存在意義は今後高まる。普通科への改編は到底容認できない。あと、横文字はやめてほしい。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 国際金融に関する専門的な学びは、主として大学段階において本格的に深化が図られる分野であり、高校段階においては、大学での高度な学びへ円滑に接続するための確かな基礎力や、論理的思考力、探究力等を育成することが重要です。 そのため、今回の改編では、商業教育で培ってきた知見や実践を生かしながら、普通科の枠組みを活用することで、より柔軟でバランスの取れた教育課程を編成することとしました。他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。
	Ⅲ-20	第一商業高校出身の社会人です。大学進学前提のカリキュラムで良いと思いました。母校が変わるのは寂しい気持ちですが、当時から生徒の基礎学力が低く、ここ数年は定員割れが目立っていたため、都内にこのような特色のある高校があるのは面白く、金融に興味のある基礎学力の高い中学生の選択肢に入るのであれば嬉しいです。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。
	Ⅲ-21	100年を超える伝統校であり、実業界からの高い評価もある第一商業高校の名残を何かしら残していただきたいです。例えば校歌は現行のものでも校名が入っていないので使用できるかと。	

「 V 教育課程」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
V 教育課程	V-1	資料を見ていると、簿記などの検定が取れる環境ではないのかと思った。高校のうちに日商簿記2級などの検定を取るということは普通科ではなかなか厳しい。私は第一商業高校在籍中に日商簿記2級を取ったが、それは大学の勉強のとても役に立った。新しい教育課程だと、国内外で活躍できる人材の前に、そもそも経済や会計についての知識を身につけることができず、中途半端になってしまうのではないか。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。
	V-2	【グローバル・ファイナンスコース(仮称)】の1点目、「金融・経済分野への進路選択を可能にする教育課程を編成し、とりわけ国際金融と経済の分野を大学段階で深めるための素養(数学的思考・英語・データ分析等)を身に付ける。」とあるが、現在の商業科の枠組みでもそれはできるはずである。第一商業高校では簿記と英語に力を入れており、日商簿記検定2級と英検準2級以上を取得した生徒が、それを認められ武蔵大学経済学部金融学科に指定校推薦で入学している。ファイナンスにはアカウンティングの知識も不可欠であり、今回の改編の目的は商業科の枠組みでも十分に達成できる。	
	V-3	【グローバル・ファイナンスコース(仮称)】の2点目、「商業教育の蓄積(会計・経済・マーケティング・情報等)を活かしつつ、国際金融教育を軸とした「世界とつながる学び」を重視する。」とあるが、教育課程案を見る限りそうならない。どこに商業教育の蓄積が活かされているのか。また、ファイナンスとアカウンティングは表裏一体の関係であり、ファイナンスだけを学んでも中途半端で役に立たない。アカウンティングについても同時に学ぶべきである。	教育課程については、いただいた御意見も参考に今後検討してまいります。
	V-4	教育は知識習得だけでなく人間関係の中で育つものであり、過度なデジタル化はその機会を奪う。	

「 V 教育課程」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
V 教育課程	V-5	(1)グローバル・ファイナンスコース(仮称)①リベラルアーツ(教養)×国際金融と経済(専門性の入口)の2点目「国際金融が会計・経済・マーケティング・情報等と直結する点を踏まえ、商業教育の体系的学びを「普通科の柔軟性」で再編し、専門性を深化」とあるが、本気でそう考えているのか。教育課程案を見る限り、普通科でも商業科でも総合学科でもない中途半端な学校にしかならないように思われる。「国際金融が会計・経済・マーケティング・情報等と直結する」と分かっているのであれば、この教育課程案がいかに中途半端か分かるであろう。これで専門性が深化できているのであれば現場について何もわからない人間が考えた案なのだろう。少なくとも、改編の目的は商業教育の枠組みで実施するほうが達成の可能性は高い。	国際金融に関する専門的な学びは、主として大学段階において本格的に深化が図られる分野であり、高校段階においては、大学での高度な学びへ円滑に接続するための確かな基礎力や、論理的思考力、探究力等を育成することが重要です。 そのため、今回の改編では、商業教育で培ってきた知見や実践を生かしながら、普通科の枠組みを活用することで、より柔軟でバランスの取れた教育課程を編成することとしました。 教育課程については、いただいた御意見も参考に今後検討してまいります。
	V-6	平成3年度の都立第一商業高校、国際会計科(既廃止)の卒業生です。 当時、国際化の進展があると期待をよせ入学し英文簿記、商業経済などを学びました。卒業後は、バブル崩壊で日本経済が衰退化していき、高校時代に学んだことが活かせる就職先もなく苦々しい思いもあります。今後の第一商業高校は簿記や会計といった商業に区切りをつけ時代の変遷に伴い、国際金融コース、国際バカレアコースを軸とするとの内容を読ませていただきました。私が社会に出て思うことは、日本の歴史や成り立ちを知ることの大事さであると痛感しております。日本人が世界と渡り合うためには、世界の金融に精通することも大事なのですが、自国の文化の歴史背景を知ってこそ真の国際人に近づくのではないかと考えています。日本の歴史、世界情勢、日本文化、日本の道徳など日本に関する教育科目にも重点をおいてもらいたい。またできれば「簿記」も選択科目の中に残してほしいと思います。簿記は社会ではどのような職種についても必須の内容であり、金融の習得に簿記の知識は不可欠だと感じております。普通科になり、校名も変更となり、簿記も姿を消してしまうのは卒業生として、全く別の高校に変貌してしまうような気持ちでさみしいです。わがままな投稿で申し訳ありませんが、少しでも検討していただければ幸いです。よろしくお願いいたします。	教育課程については、いただいた御意見も参考に今後検討してまいります。

「 V 教育課程」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
V 教育課程	V-7	情報系(IT)の学習内容が少ないように感じます。 商業の専門科目である情報系の科目の充実を図ることが必要だと思います。	教育課程については、いただいた御意見も参考に今後検討してまいります。
	V-8	簿記とビジネスを基礎から実践まで学べるのが、第一商業高校の特徴であると考えます。簿記はAIが発達している中いまだに社会では必要とされているスキルである。そのため、改編によりそれらの授業がなくなるのは第一商業高校に、進学する理由をひとつ奪うと考える。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。
	V-9	「グローバル・ファイナンスコース(仮称)教育課程(案)」では、3年間ファイナンス探究Ⅰ～Ⅲとして7時間想定されているが、これをもって専門性の深化と考えているのか。【Ⅲ 改編の方向性】において「商業の専門性と普通科の学びを融合した新たな教育課程を編成」とあるが、7時間のファイナンス探究だけで商業の専門性が高まるとは考えられない。	教育課程については、いただいた御意見も参考に今後検討してまいります。
	V-10	「グローバル・ファイナンスコース(仮称)教育課程(案)」では、34時間の教育課程案が示されているが、土曜日授業を想定しているのか？平日の7時間授業を想定しているのか？	
	V-11	このような学校の方針を中学生は正確に理解できないと思う。	入学者選抜の方法や具体的な教育課程の内容等、改編に向けた検討を進め、本校の受検を検討する生徒が学校選択の判断材料とすることができるよう、都教育委員会のホームページ等で可能な限り早期に周知を行ってまいります。

「V 教育課程」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
V 教育課程	V-12	簿記を理解せずに、国際金融など理解できるわけがない。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 教育課程については、いただいた御意見も参考に今後検討してまいります。
	V-13	GF数学、英語等の授業では、教科書+αの内容を取り扱う、ということか？ 既存の科目との違いの説明を明記するべき。	
	V-14	現在在籍している生徒の保護者です。 選択科目の幅の狭さが気になります。 内容も、昭和の商業高校的な学習となっています。既にいま、変えることができることに着手すべきです。	
	V-15	①34単位編成であるが、土曜授業の実施または7時間授業を想定しているか。そのような記述がないため、どのような時間割を編成するのか。 ②総合的な探究の時間の設定がないか、ファイナンス探究で代替をするのか。その旨の記述がないため、した方がよいのではないか。	
	V-16	新しく設置する国際バカロレアコースのHLを3～4科目履修とありますが、HL4科目を取ることができるのでしょうか？国内の1条校は時間割の制約でHLは3科目履修となり、4科目履修ができるのは時間割の制約がないインターナショナルスクールかと思っていましたが。	

「 V 教育課程」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
V 教育課程	V-17	教育課程の編成案では、ファイナンス探究及びGF数学、GF英語が学校設定科目として設定されるように見受けられますが、学校設定科目に関しては、「普通科においては、学校設定科目及び学校設定教科に関する科目に係る修得単位数は、合わせて20単位までを卒業までに修得させる単位数に含めることができる。」とされており、必修科目での20単位以上設定は適切でないと考えます。	教育課程については、いただいた御意見も参考に今後検討してまいります。
	V-18	コースが入学時から分かれていないように見える。入学時から分けて、そのコースごとの目標に向けた子供たちの育成を3年かけて図るべきであると考えます。	
	V-19	商業科の新たな教育課程として「観光」の導入を提案します。訪日外国人の増加や地域観光の活性化が進む中、観光産業は今後も成長が期待される分野です。一方で、公共交通機関や観光関連業界では人材不足が深刻化しており、高校段階から観光や接客、ビジネス英語を学ぶ意義は大きいと考えます。観光に関する資格取得や実践的な学習を通して、地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成につながることを期待します。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。
	V-20	週に一回程度の授業では経済の知識は身につかないと思う。もし本気でそういった人材を育成する気があるのなら、バカロレアとグローバル金融ではなく、バカロレアと商業科の併設のほうがよっぽど意義があるのではないかと。普段はそれぞれのコースが違う内容を学習しつつ、定期的に交流するなどして知見を深めるべき。	グローバル社会においては、国際金融を体系的に学び、国内外の課題解決に向けて主体的に行動できる人材の育成が求められています。このため、国際金融を中心とする新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校とし、あわせて、国際的な視野と探究的な学びを体系的に育成できるよう、国際バカロレア教育を実施するコースを併置します。

「 V 教育課程」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
V 教育課程	V-21	「金融の仕組みを国際的な視点から理解し、国内外の課題解決に向けて主体的に行動できる人材を育成」とあるが、中学生のうちにそこまで進路を絞って良いのか。商業科であれば資格を利用して大学進学や就職もできる。その他の専門学校への進学ができるが、新しいコースでは結局受験のための勉強がメインとなってしまう、商業科の良いところを活かせないのではないのか。	国際金融に関する専門的な学びは、主として大学段階において本格的に深化が図られる分野であり、高校段階においては、大学での高度な学びへ円滑に接続するための確かな基礎力や、論理的思考力、探究力等を育成することが重要です。 そのため、今回の改編では、商業教育で培ってきた知見や実践を生かしながら、普通科の枠組みを活用することで、より柔軟でバランスの取れた教育課程を編成することとしました。
	V-22	グローバル・ファイナンスコースも、国際バカロレアコースについても、教育課程の編成案を見る限りでは、どのようなレベルの生徒が対象の学校なのかがわかりかねる。有名難関大学を目指させるのか、特色ある学びができる探究学習を重視しているのか。親類に高校教員がいるので話題にしたところ、この教育課程では目指すところかわからない、とのことでした。こどもが中学校2年生で、興味をもっていました。志望校を決めるのには、授業内容と大学進学が重要、と親としては思いますので早めに情報がでることを期待している。	入学者選抜の方法や具体的な教育課程の内容等、改編に向けた検討を進め、本校の受検を検討する生徒が学校選択の判断材料とすることができるよう、都教育委員会のホームページ等で可能な限り早期に周知を行ってまいります。
	V-23	国際金融・IBコースにおける「簿記・英語」の資格取得必須化 新たなカリキュラム(国際金融・国際バカロレアコース)において、商業高校の原点である「簿記」科目がファイナンス会計になり、授業数が削減されております。第一商業高校のアイデンティティを保ち、社会で即戦力となる人材を育てるため、「商業知識(日商簿記2級)」および「英語(英検準2級)」の資格取得を必須とすることを提案します。 真の国際交流のための「郷土史教育」と「多言語育成」海外研修を経験した生徒の「留学先で日本のことを深く説明できなかった」という声を踏まえ、国際交流の土台として、まずは自国や郷土(日本・東京・渋谷、そして母校)の歴史を深く学ぶ教育の充実を求めます。また、英語のみならず「第三言語」とその文化まで踏み込んで学べる環境づくりを提唱します。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。

「VI 施設・設備」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
VI 施設・設備	VI-1	「本校は、既存の都立高校の校舎内に設置する予定」とあるが、既存の第一商業高校への影響は十分に考慮したのか。第一商業高校はただでさえ教室が少なく、放課後の指導等で空き教室を確保するのが困難な状況である。今後も準備等で使用教室が減ることが予想されるが、現在いる生徒への影響等を十分に考慮した計画とは思えない。様々な影響を考慮した計画なのか甚だ疑問である。	本校の教育内容を安定的に実施できる環境を確保するために必要な改修や設備の更新等について検討し、円滑な教育活動の実施に向けた環境整備を進めてまいります。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。

「Ⅶ 基本的枠組み」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅶ 基本的枠組み	Ⅶ-1	【ビジネス科における取組について】において、「本校においては、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校としてのカリキュラムの本格実施に先駆けて、既存のビジネス科においても、国際金融及び国際バカロレアの取組(インターンシップや企業講演会)を取り入れるなどしながら、生徒の希望進路の実現に向けてカリキュラムの充実を図っていく。」とあるが、現場への影響は考慮しているのか。改編が現在の第一商業高校の生徒や教職員に影響を及ぼすことがあってはならない。	既存のビジネス科においても、資格取得や進路の指導などこれまでと同様に支援を行いながら、国際金融及び国際バカロレアの取組を取り入れる等し、生徒の希望進路の実現に向けてカリキュラムの充実を図ってまいります。引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。
	Ⅶ-2	【ビジネス科における取組について】で「今回の改編は商業教育の「新たな魅力向上策の一つ」とあるが、教育課程案を見る限り、そうはなっていない。中途半端に商業をかじっている程度の内容で、「商業教育」と呼べる代物ではない。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。
	Ⅶ-3	(5)改編予定年度で「令和10年度※現在のビジネス科については、令和10年度から募集停止」とあるが、なぜ1～2クラスでもビジネス科を残すという計画にならなかったのか。第一商業高校は簿記と英語教育に力を入れており、これらの資格取得については第五商業高校と双壁をなしている。実際、日商簿記検定2級を取得できる都立商業高校は上記2校となっており、第一商業高校の卒業生では、公認会計士や税理士、日商簿記1級等を取得して会計専門職として活躍しているものが多い。今回の改編で第一商業高校からビジネス科がなくなることによって、都内では多摩地域の第五商業高校でしか簿記会計のスペシャリストを目指すことができなくなる。果たしてそれでいいのか、またそこまで考慮していたのか疑問である。グローバル・ファイナンスコース(仮称)をビジネス科の枠組みで実施するか、あるいは三つ目のコースとしてビジネス科を設置したほうがよいと考える。第一商業高校が大切にしてきた簿記会計教育をここで途絶えさせるべきではない。	本計画では新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編します。他の商業高校においても、各校が商業科としての専門教育を実施する中で培ってきた強みや地域特性を活かし、時代の変化に応じた教育のアップデートを進めていきます。

「Ⅶ 基本的枠組み」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅶ 基本的 枠組み	VII-4	(5)改編予定年度で「令和10年度※現在のビジネス科については、令和10年度から募集停止」とあるが、周知や準備に時間がなくあまりに性急ではないか。現場では令和9年度向けの募集対策をしていたが、今回の件でこれらの活動に多大な影響が出ている。どういう経緯でこのようなスケジュールになったのか。	本計画案の作成に先立ち、昨年11月から「都立高校の魅力向上等に係る懇談会」及び専門部会において、魅力ある都立高校の在り方等について議論を行ってきました。その中で、国際金融と英語を一体的に学ぶ学校づくりの必要性についての提案があり、学校や大学、金融業界等の外部有識者の意見を踏まえ、教育庁内で検討を重ね、計画案を作成しました。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。
	VII-5	国際バカロレアのディプロマ・プログラム(DP)をデュアルランゲージで専門高校である第一商業高校で導入すること、より多様な生徒がDPIにアクセス出来る観点から賛成です。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。
	VII-6	令和10年度生より実施ということであるが、第一商業高校は令和12年度まで存続するということか。その場合新たな学校と併存することになるが、学校運営上難しいのではないか。第一商業高校の生徒が全て卒業したのち、新校を開校する方が良いのではないか。	
	VII-7	都立第一商業高校の改編については、時代や地域状況に合わせた教育内容の見直しとして一定の理解をしています。 しかし、校名変更については反対です。 「第一商業」という名称は、長い歴史の中で築かれてきた伝統や卒業生の誇り、地域からの認知と深く結びついています。単なる名称ではなく、多くの人の思い出や実績、文化を背負った存在です。 教育内容や制度が変化していくことは必要だとしても、校名まで変更する必要があるのかには疑問があります。歴史ある名称を残しながら新しい教育を行うことも十分可能ではないでしょうか。 在校生・卒業生・地域住民にとって、「第一商業」という名前には大きな意味があります。伝統の継承という観点からも、校名は存続させるべきだと考えます。	学校名については、設置場所や教育内容などを踏まえ、今後検討し決定いたします。

「Ⅶ 基本的枠組み」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅶ 基本的枠組み	Ⅶ-8	【東京都立第一商業高等学校の校名と校章について】 100年の伝統ある「第一商業」の校名と校章の存続 ○これまで一商同窓会と（公財）一商奨学会が担ってきた、奨学金制度と海外研修制度を新体制ではどのように対応するのか。双方共に存続させるためには、新学校名は第一商業高校卒業生と新設校生徒との思いのつながるものでなければ、出資者である卒業生の理解を得るのは難しい。 ○具体的には「校名」と「校章」は「都立第一商業高校」と「国際バカロレアコース」「グローバル・ファイナンスコース」双方のイメージがアピールできるものでありたい。 ○100年以上にわたり培われた「第一商業高校」の知名度と卒業生の実績は、産業界・経済界において大きな無形財産です。一度失えば二度と取り戻せない。 そのため、新設されるコース等においても、「都立第一商業・国際高等学校」など、必ず「第一商業」の名を残し、伝統の校章を継承することを強く求めます。	学校名等については、設置場所や教育内容などを踏まえ、今後検討し決定いたします。

「Ⅷ これまでの検討経過」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
Ⅷ これまでの検討経過	Ⅷ-1	「第一商業高等学校を、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編」とあるが、教育課程案を見る限り「改編」ではなく、「閉校」もしくは「閉課程」としか思えない。「改編」をうたうのであれば、商業科(ビジネス科)の枠内ですか、せめて商業科(ビジネス科)を1クラスでも残すべきだろう。「改編」といいながら、これまでの第一商業高校の歴史を踏みにじる実質「閉校」・「閉課程」であり、断固反対である。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。
	Ⅷ-2	本計画案の作成に当たり上と現場との意思疎通、生徒保護者からの意見はしっかり汲み取ったのだろうか。不透明感が残り、すっきりしない。	本計画案の作成に先立ち、昨年11月から「都立高校の魅力向上等に係る懇談会」及び専門部会において、魅力ある都立高校の在り方等について議論を行ってきました。その中で、国際金融と英語を一体的に学ぶ学校づくりの必要性についての提案があり、学校や大学、金融業界等の外部有識者の意見を踏まえ、教育庁内で検討を重ね、計画案を作成しました。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。

「IX 本計画の実施にあたって」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
IX 本計画の実施にあたって	IX-1	現在の中学2年生が入学する年から適用とはあまりにも急すぎる。 現在の中学生はすでに第一商業高校への進学を目標に勉強している人もいるはず。 現在の高校1年生は高校卒業前に学校が大きく変わってしまうことになる。 周知期間等が短過ぎるし、中学生や在校生への配慮に欠ける。 商業科から普通科に改編する計画には強く反対する。	本計画案の作成に先立ち、昨年11月から「都立高校の魅力向上等に係る懇談会」及び専門部会において、魅力ある都立高校の在り方等について議論を行ってきました。その中で、国際金融と英語を一体的に学ぶ学校づくりの必要性についての提案があり、学校や大学、金融業界等の外部有識者の意見を踏まえ、教育庁内で検討を重ね、計画案を作成しました。 既存のビジネス科においても、資格取得や進路の指導などこれまでと同様に支援を行いながら、国際金融及び国際バカロレアの取組を取り入れる等し、生徒の希望進路の実現に向けてカリキュラムの充実を図ってまいります。
	IX-2	「今回の改編では、商業教育で培ってきた知見や実践を生かしながら、普通科の枠組みを活用することで、より柔軟でバランスの取れた教育課程を編成することとした。」とあるが、何をもってバランスの取れた教育課程といっているのか不明である。自己満足ではないのか。商業教育はどこにいったのかという印象しかない。	国際金融に関する専門的な学びは、主として大学段階において本格的に深化が図られる分野であり、高校段階においては、大学での高度な学びへ円滑に接続するための確かな基礎力や、論理的思考力、探究力等を育成することが重要です。 そのため、商業教育の専門性に加え、文系・理系に偏らず、大学の学びに繋がる柔軟でバランスの取れた教育課程を編成してまいります。

「IX 本計画の実施にあたって」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
IX 本計画の実施にあたって	IX-3	「商業科として教育課程を編成する場合には、学習指導要領に基づく専門教科「商業」に属する科目の必要単位数の確保が求められることから、進学に必要な普通教科を中心とした学びとの両立に工夫を要するという課題があることも明らかになった。」とあるが、商業高校の進学の現状を理解しているのか。中学校で勉強に対して苦手意識のあった生徒が、高校で一から商業科目を学び自信をつけ、それを検定取得という形で可視化し、ほとんどの生徒が推薦入試で大学進学を果たしているという現状がある。一般入試で進学する生徒はほぼ皆無である。商業高校を一つ減らし、普通科の枠組みにすることとは、こういった生徒の活躍の場を減らし、その他大勢の普通科と同様になり結局は今ある第一商業高校の個性が埋没することになる。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 国際金融に関する専門的な学びは、主として大学段階において本格的に深化が図られる分野であり、高校段階においては、大学での高度な学びへ円滑に接続するための確かな基礎力や、論理的思考力、探究力等を育成することが重要です。 そのため、今回の改編では、商業教育で培ってきた知見や実践を生かしながら、普通科の枠組みを活用することで、より柔軟でバランスの取れた教育課程を編成することとしました。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。
	IX-4	○校名について 校名について、「学校名を設置場所や教育内容を踏まえて検討する」としているが、学校名に「商業」の名称を残すことを最優先に検討していただきたいと強く要望します。 第一商業高等学校は、長年にわたり東京都の商業教育を支えてきた歴史と実績を持ち、「第一商業」という名称自体が地域社会や産業界において高い認知と信頼を築いてきました。この名称は単なる学校名ではなく、商業教育の伝統・専門性・ブランド価値を象徴する重要な資産です。さらに、改編後も商業教育を継続するのであれば、なおさら「商業」の名称を残すことは、学校の教育理念を明確に示すうえで不可欠です。また、在校生・卒業生・地域住民にとっても、名称の継承は学校のアイデンティティを守る大切な要素となります。以上のことから、学校名の検討にあたっては、「商業」の名称を残すことを第一に考えた検討を行うことを強く求めることについて、都教委の考えをお聞かせ願います。	学校名については、設置場所や教育内容などを踏まえ、今後検討し決定いたします。

「IX 本計画の実施にあたって」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
IX 本計画の実施にあたって	IX-5	渋谷に立地している商業高校はとても魅力的であり、日本の商業教育をリードできる学校だと思います。学校自体の改編の前に、「商業高校とは何か」「商業高校に行くメリット」を中学生と中学校教諭にアピールするのが行政と学校の役割だと思います。全て学校の内容が悪いという責任転嫁はよろしくありません。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 商業高校の魅力発信については、ホームページやイベントを通して引き続き取り組んでまいります。
	IX-6	教職員、生徒、保護者、卒業生に何の説明もなくこういった計画を突然発表するのはおかしい。早急に説明会の開催を求めます。	本計画案の作成に先立ち、昨年11月から「都立高校の魅力向上等に係る懇談会」及び専門部会において、魅力ある都立高校の在り方等について議論を行ってきました。その中で、国際金融と英語を一体的に学ぶ学校づくりの必要性についての提案があり、学校や大学、金融業界等の外部有識者の意見を踏まえ、教育庁内で検討を重ね、計画案を作成しました。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。
	IX-7	学級規模が各学年4クラス160名で、かつ国際金融コースが135名、国際バカロレアコースが25名では、国際金融コース3クラスに国際金融15名＋国際バカロレア25名という混成クラスが1クラスというかなり不規則な編成になりますが、何か意図はあるのでしょうか。	クラス編成については、今後検討してまいります。

「IX 本計画の実施にあたって」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
IX 本計画の実施にあたって	IX-8	①優秀な生徒を集めるために、高大提携を集められればと思います。設立前ですので、提携を受け入れる大学の有無は不明ではありますが。 ②合わせて大学の指定校を受けていることも学生を集める方策と思います。これも設立前ですが、必要条件かと思います。 ③18歳で卒業して、国際金融等を受け持つには、ちょっと無理があるかも知れません。従って、基礎知識を得て、大学で更に教育を受けられるシステムが宜しいかと。 ④優秀な生徒を各中学や学習塾でコネを付け、受験を促す。そして、TOP20名位はかなり優秀な生徒が集まれば、その後も追従すると思います。	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。
	IX-9	専門性の高い指導内容が求められると感じます。 現在の人事異動のルール(最長6年)にしたがった教員の配置では、持続することが困難であると感じます。 開校時のコンセプトや高い志を持続させるためには、新たな人事異動のルールづくりが必要だと思います。	教員の専門性の向上について、国際バカロレア機構が指定するワークショップの受講など、必要な取組について計画に追記します【P17 VI 2】。
	IX-10	現場や生徒、保護者や卒業生の意見を聞いてください。勝手に色々決まりすぎて困惑しています。せめて対面の説明会を開いてください。	本計画案の作成に先立ち、昨年11月から「都立高校の魅力向上等に係る懇談会」及び専門部会において、魅力ある都立高校の在り方等について議論を行ってきました。その中で、国際金融と英語を一体的に学ぶ学校づくりの必要性についての提案があり、学校や大学、金融業界等の外部有識者の意見を踏まえ、教育庁内で検討を重ね、計画案を作成しました。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。

「IX 本計画の実施にあたって」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
IX 本計画の実施にあたって	IX-11	グローバル金融を理解するための経済学を学ぶと書いてあるが、果たして中学生はそういった趣旨を理解して受検を決めるのだろうか。	入学者選抜の方法や具体的な教育課程の内容等、改編に向けた検討を進め、本校の受検を検討する生徒が学校選択の判断材料とすることができるよう、都教育委員会のホームページ等で可能な限り早期に周知を行ってまいります。
	IX-12	私は第一商業高校に進学することを目標に勉強しているのに、急に普通科になると言われ困惑しています。受験を控えている中学生の気持ちを全く考えてくれいていません。あまりにも身勝手な計画に私たちは振り回されています。また進学先を考え直さなくてはいけなくなり、非常に迷惑です。	本計画案の作成に先立ち、昨年11月から「都立高校の魅力向上等に係る懇談会」及び専門部会において、魅力ある都立高校の在り方等について議論を行ってきました。その中で、国際金融と英語を一体的に学ぶ学校づくりの必要性についての提案があり、学校や大学、金融業界等の外部有識者の意見を踏まえ、教育庁内で検討を重ね、計画案を作成しました。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。
	IX-13	第一商業高校創立110周年の年に閉校はおかしいと思う。110周年の式典を実施するのは知らないが、祝うときは3学年すべてが第一商業高校生でなければいけないと思う。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。

「IX 本計画の実施にあたって」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
IX 本計画の実施にあたって	IX-14	進学校にするのに国際金融の科目はいらない。新しい学校の生徒も混在するのは、失敗する。生徒がいない空白期間をつくるべき。 この新しい学校の生徒が卒業するのは、早くて5年後。その時に動画等による自由進度学習を中心とした、多様性、対話があふれる学校にするべき。	本計画では、第一商業高等学校が長年にわたり実践的な商業教育を通じて培ってきた歴史と伝統を踏まえ、新たな商業教育の価値を創出するフラッグシップ校として改編することとしています。 引き続き関係者と連携しながら丁寧に進めてまいります。
	IX-15	私は第一商業高校を卒業後、大学法学部へ進学、その後専門商社へ就職し、現在はその会社の代表を務めております。 第一商業高校の転換は大変、喜ばしいと感じております。旧態依然の勉学では複雑な取り組みに対応が難しいと考えておりました。 人口減により、産業形態と会社の運営が極めて劇的に変化の兆しが見えております。 ①現在の経済規模を維持するには、外国人の起用が必須ですが、社会が落ち着くまでは海外の例をみても、相当な時間と覚悟を要します。 この間に様々な課題が発生します。 ②金融ですが、資金調達の方法が多様化しております。 また、特に、株式による資金調達が目的ではなく、株主を意識するあまり、自由な経営に影響がでているようです。 株式の在り方も授業内容に加わると面白いと思います。 ③AIを参考にしながら、複雑な仕組みの教育をして頂き、政治・経済の安定に寄与できる人材を養成していただきたく思います。 ④第一商業高校のOBには税理士をはじめ、実学の経験者も大勢います。その方達の話も合わせて聞いて頂けると宜しいかと思います。 ⑤最後ですが、3年でも習得が困難な場合は大学への進学もありですが、工業高専のような5年制の検討は如何でしょうか？	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。

「IX 本計画の実施にあたって」に対する御意見

項目	番号	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
IX 本計画の実施にあたって	IX-16	とても良いと思います。海外大などの実績もついてくるとより良いと思いました。(海外大は日本と受験スタイルが違うため、それをカバーする教育方法など) 私は仕事の影響で海外赴任に子供を連れて行く可能性も高いのですが、難関大や海外大を目指す私立の中高一貫にいれるのが主流であり、中学受験のために子供を海外赴任に連れて行かない選択肢をしている人が周りで多くいます。幼少期に親と一緒にいることは重要だと私は考えているので、より子供の進路の柔軟な選択肢ができるよう都立高校も頑張ってもらいたいと思って応援しています。 都立高校出身者より	御意見ありがとうございます。今後の施策の参考にさせていただきます。